

大阪市立大学教授 山下英次

「アジア地域統合の建設に向けて何が必要ならなければならないか？」

1. 日本の外交姿勢の大きな転換が必要
 - ・ 「失われた十数年」の教訓を認識せよ・・・度を越した対米配慮が原因
 - ・ 日本は、イギリスの轍を踏むな
 - ・・・「アーミテージ・レポート」(2000年10年)の危険性
 - ・ アジアにおいても、欧州と同様に重層的な安全保障体制が必要
 - ・・・NATO、WEU(西欧同盟)、the Council of Europe、OSCE
 - ・ 日本は、欧州におけるドイツの役割をアジアで果たせ
 - ・・・「アジアの中で生きる」という決断を迫られている
 - ・ 「東アジア・サミット」(2005年12月)の虚
2. 域内各国政府の非常に強い政治的意思が必要
 - ・ 欧州の”an ever closer union”に学べ
 - ・ 「アクション・プログラム」の必要性
3. 日中の「コア・パートナーシップ」or「ジョイント・リーダーシップ」が必要
 - ・ ”Give & Take”の関係は可能
 - ← 日中両国は、お互いに負い目を持っている
 - 日本＝歴史の負の遺産
 - 中国＝非民主主義国の負い目、LDCの負い目
 - ・ 両国首脳同士の信頼関係が重要
 - 独仏・・・「アデナウアー&ドゥ・ゴール」、
「シュミット&ジスカルール・デス

タン]、「コール&ミッテラン」

- ・ いずれは、日中が、「Co-driver's Seat」に
当面は、「ASEAN in the Driver's Seat」だが・・・

4. アジアのアイデンティティを認識すべき

- ・ アジアは、共通の文化的背景を持つ
 - ① 歴史的=インド文明と中国文明の影響を受けた地域
 - ② 近代以降=何らかの意味で、日本型経済発展モデルの影響を受けた地域

その他、3つの認識が重要

- ① 度を越した対米配慮が国を誤らせる
 - ・ アメリカは、アジアが地域統合をしなければならない理由
 - ・ 日米同盟足枷論・・・日本の政策選択に対する非常に大きな制約要因
- ② グローバル・ガバナンス構造変容の可能性
 - ・ 「小国前提」と「世界環境=与件」に基づく受動的態度を改めよ
 - ・ 米国の一極支配に基づく globalisation → 多極化 (polarisation) の時代へ
- ③ 今後の日本の真の対立軸
 - ・ このまま対米追従を続け、非独立国 (vassal state) のままであり続けるのか？
or
 - ・ アジア地域統合にリーダーシップを発揮することを通じて、真の独立国を目指すのか？